

新たにこんな本が入りました！ 大人の本

小説：『終わらざる夏 上下』（浅田次郎 集英社）リクエスト
『原稿零枚日記』（小川洋子 集英社）『存在の美しい哀しみ』（小池真理子 文藝春秋）『昭和質店の客』（佐江衆一新潮社）『チッチと子』（石田衣良 毎日新聞社）

エッセイ：『若き日の友情―辻邦生・北杜夫往復書簡』（新潮社）『安心したがる人々』（曾野綾子 小学館）『最後の授業』（北山修 みすず書房）『ヤノマミ』（国分拓 NHK出版）『妻と私』（江藤淳 文藝春秋）『縁あって』（白洲正子 PHP）

『音楽嗜好症―脳神経科医と音楽に惹かれた人々』（オリヴァー・サクス 早川書房）

文庫・新書：『路地の匂い 町の音』（森まゆみ ポプラ文庫）『絶滅寸前季語辞典』（夏井いつき ちくま文庫）『ぼんやりの時間』（辰濃和男 岩波新書）

『「少年 A」この子を生んで』（「少年 A」の父母 文春文庫）『JR 山手線の謎』（松本典久 じっぴコンパクト文庫）

『酔いどれ小藤次留書 冬日淡々』『酔いどれ小藤次留書 品川の騒ぎ』（佐伯泰英 幻冬舎時代小説文庫）『鎌倉河岸捕物控 17 紫房の十手』（佐伯泰英）『鎌倉河岸捕物控街歩き読本』（鎌倉河岸捕物控街歩き読本編集部編 川村文庫）

文庫あれこれ◆猛暑の今夏をみなさんはいかががお過ごしでしたか？ 私はバテまくり、今もって体調不良です。本当に年を感じた夏でした。◆でも、ここに来てこの静けさのなかに身をおくと、いっとき万年疲労が遠のいてゆく気がします。もっとも今日は涼しかったですが。◆今は、土曜の早朝 4 時、鮫島有美子の歌をききながら、お便り作っています。実は昨夜中に仕上げるつもりだったのですが、夕食にと駅の魚屋さんで買ってきたお刺身で 1 パイやったら眠くなって。真夜中に起きたら庭では虫の音楽会フィナーレの合唱でした。今は寒いくらいです。◆決心しました。もう少し本をおける場所づくりを。家族には景観が悪くなる、と批判されそうですが。◆私たち文庫のスタッフはあと 10 年は現役で文庫を続けたいと思っています。開館して 4 年で、2500 冊が 7500 冊になりました。まだ書棚に出していない本もあります。図書館に比べれば雀の涙ほどですが、何とか 1 万冊強の蔵書枠を確保したいと考えています。頑張るぞ、と言っても力が出ない昨今ですが。◆みなさん、たくさん借りてたくさん読んで感想をお寄せください。それが私たちの一番の力になります。8 月で会員数 400 名になりました。（西村）

〻〻 これからの催し物のお知らせ 〻〻

〻〻秋の夜長のおはなし会(昔話と創作)〻〻

10 月 16 日(土)5:30PM～

～お琴の演奏もあります～

プログラム： 月、秋をテーマにしたお話：おはなし沙羅会員 & マリアの子(グリム)／金の足のベルタ(ファージョン)：ゲスト

♥小学生以上でゆっくりおはなしがきける人ならどなたでもどうぞ!♥

★クリスマスおはなし会・おたのしみ会★

12 月 19 日(日)10:30AM～12:00

会員ならどなたでも。ひとつ 300 円程度のプレゼントをご用意ください。

今後の開館スケジュール

◆10 月は 16 日、17 日通常。

◆11 月は通常と違います。13 日、14 日

◆12 月は 18、19 日の通常開館です。

※文庫の時間：土曜日は午後 2 時～5 時、日曜日は午前 10 時～午後 3 時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前 10:30～11:00

♥文庫開館日は毎月、第 3 日曜とその前日の土曜日の 2 日です(従って第 3 土曜日でなく第 2 土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会 (おはなし・沙羅)

★10 月は 16 日(土)AM。本番リハーサル

沙羅の樹文庫便り

No.49 (2010 年 9 月号)



加藤 紀子

更くる夜の時を追いつつ計りつつ
月下美人は声なく開く

7 月の末でした。因縁としか言いようのない人の誕生日でした。それから数年して、早く早く来て！咲くのよ、もうすぐ開くのよ、と知らせてきたその日は、彼女の夫の命日でした。9 月下旬の……。月下美人は「7 月の花」ですが、もうすぐお彼岸、この花が開くの固唾をのんで見つめていた 10 年ほどまえの秋を思い出します。

歌の作者は、この地にお住まいの方です。『星に住む』という歌集をいただきました。

秋の気配がようやく感じられます。夏のお疲れがでませんように！ 間もなく読書の秋到来！

連絡先：沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737



『ぜったいたべないからね(チャーリーとローラのおはなし)』
(ローレンス・チャイルド作 木坂涼訳 大日本絵画)

おんなのこととおこのこのきょう
だいがいました。いもうとが、す

ききらいがおおかったので、おにいちゃんがくふうをして、たべもののなまえをかえてたべさせました。

たとえば、にんじんをえだみかん、じゃがいもをくもくじやらん、さかなのフライをころもみとかにかえるのです。

さいごには、いもうともさんかして、「あれとって」といったので、おにいちゃんはびっくりしました。それは、いもうとがきらいな<トマト>でした。いもうとは、それを「わたしのすきなまんげつぶちゅつ」といったのです。さいごには、「おにいちゃん、しらなかつたの?」といわれちゃったおにいちゃんでした。

ゲームみたいでたのしかったです。それと、おもしろいえがわらえました。とくにきょうだいのめがおかしかったです。

まつばらしょうがっこう1ねん なかいえちはな

新たにこんな本が入りました！ 子どもの本

絵本『なんのおと あき』『なんのかたち あき』『チビヤクカムイ』(以上、絵本塾出版)『きみがいま』(主婦の友社)『ほしをめぐして』(岩崎書店) 2冊同作者、子どもにも大人にも癒し系の絵本『ないしょのおともだち』(ほるぷ出版。絵本好きが選ぶ1冊 2010 第1位)『その気になった!』(絵本館)『はがぬけたらどうするの?』(フレール館)『南の国へおもちゃの旅』(童話館出版)『あおいくも』(トミー・ウンゲラー作 ブロンズ新社)『プレンディバール』(センダック絵 徳間書店)『キンコンカンせんそう』(ジャン・ロダリー作 講談社)

以上3冊著名作家によるテーマ・戦争はだめよ!

『ゆめくい小人』(エンデ作の絵本化、偕成社)『百年の家』(一軒の家が受け止めてきた人間の歴史でもある。講談社)『どこでもない場所』(シュールな話、絵。ほるぷ出版)『ラストリゾート』(主人公の泊まったリゾートホテルには? 国際アンデルセン賞絵本賞序章画家インノチェンティの想像の世界 BL出版) 以上高学年向き
ノンフィクション 『宇宙たんけんたい4 火星』(小峰書店 リクエスト)

読み物 『シノダ! 時のかなたの人魚の島』(シノダ! の5冊目の本にして文庫初お目見え 富安陽子作 偕成社)

夕暮の緑の光—野呂邦暢随筆選

岡崎武志編集 みすず書房

このタイトルは、この本におさめられた57編の随筆のひとつのタイトルでもある。

残念なことに野呂の小説は読んだことがなかったが、『夕暮の緑の光』を読めば、どうしても彼の小説を読みたくなってしまふ。

—木漏れ陽の色、夕暮れの緑の光、11月の風の冷たさ、海の匂いと林檎の重さ、子供たちの鋭い叫び声、—などに自分が全身的に動かされるのでなければ、書きだすにはいかなかっただろう。と彼は書いている。

大村湾と有明海と橘湾の海に囲まれ、ナガサキと天草四郎の生きた島原半島の受難にはさまれた街、諫早で小説を書いて、芥川賞をとり、42歳でなくなってしまった野呂の小説のひみつがこの本の短い随筆のなかにたっぷりこめられている。

また、何編かの古書店とその店主への愛ある観察がおもしろい。特に、山王書房という、ときに値引きしてくれる店主が、あるとき「そんなことはできない」と怒り、本は買えなかった。仕事をやめて諫早に帰る前、どうしても欲しい本があり事情をはなすと何割か安くしてくれた。(芥川賞をとった彼は自分の本をその店主に贈呈したそうである。昔日の客、よりと書いて。その店主は文章も書かたで随筆集を出版し、そのタイトルにこの野呂が書いた、昔日の客とした。)

()は野呂の随筆のなかにはなく、若い現役の古書店主や編者、岡崎のブログで読みそのときはじめて野呂の名前をしり、いつか読んでみたいとおもっていたのが、沙羅の樹文庫でであい、とてもうれしかった。

同郷の伊東静雄のことを書いたものにも興味を惹かれた。

この本は自分のそばにおいて、おちこんだとき、そっと頁をめくるとこの世にもまだ味方がいるよ、という声がきこえてくるようで気に入っている。

ぜひ読んでみてください。きつと気に入ります。(ダダッコ)

♥初めての寄稿者、伊東市在住の会員です。これからもよろしく願います。♥



最近お借りした本についての読後感

2010年9月15日

By 森林浴

①『韓国併合百年と「在日」』金贊汀著 新潮社
日本と日本人が朝鮮半島の国と人を如何にひどく扱ったのかが、際限もなく書かれていて憂鬱になるような本。岡崎久彦氏(元外交官)が「東アジアで唯一他国に攻め込んだことのない国」と指摘されていたが、そもそも朝鮮半島は地政学的に不運な位置にあり、地続きの中国・ロシア・モンゴル、そして一衣帯水の日本に常に侵略・抑圧勢力下に置かれてきたのですね。可哀想な国です。

②『建築家』安藤 忠雄著 新潮社
写真家・荒木経惟(アラキ)の撮った表紙の安藤忠雄の顔は一度見たら決して忘れられないような、暗い目の戦闘的な顔だ。実際彼はボクサーになろうとしたこともある。まともな建築士資格も持っていないと悪口を言う向きもあるようですが、独学で学びついに世界的に著名な建築家になった安藤の自伝は面白い読み物。

③『ジミーの誕生日—アメリカが天皇昭仁に刻んだ「死の暗号」—』猪瀬 直樹著 文芸春秋
東京裁判のA級戦犯29人に起訴状が通達されたのが昭和天皇の誕生日4月29日であり、東條英機など7人の死刑囚に絞首刑が実行されたのが、現在の平成天皇の誕生日12月23日である。著者はこれをマッカーサーが戦争の真の責任者たる天皇一家に刻んだ刻印であるとする。

こういう一連の敗戦直後の裏面史に、子爵夫人・鳥尾鶴代とマッカーサーの腹心のハンサム男ケーディス大佐との不倫のエピソードを絡ませているが、これは中途半端な感じであまり効果的とは思えない。

④『世界は一冊の本』長田 弘 みすず書房
詩は鋭い、ナイフのように。
詩は涼しい、青い風のように。

⑤『ショパン 奇蹟の瞬間—聴きながら読むジュルジョ・サンドとの愛』高樹 のぶ子著 PHP 研究所
2人が滞在したマヨルカ島やノアン(ジュルジョ・サンドの邸宅があった村)などを訪れて書いた感傷旅行記。ピアノ曲のCD付きで緑陰の読書向き。

⑥『黒船前夜』渡辺 京二
この著者は熊本に腰を据えたユニークな歴史家らしい。藤原正彦氏などが着目して、「逝きし日の面影」という名作で名を広く知られることになった。この本は開国前の日本にロシアがどのように接近してきたのかの歴史を詳細に記述、内容も実に面白いが、厚い本で猛暑の中で読み通すのはちょっと大変。